

第8期 第10回 静岡市行財政改革推進審議会 会議録

1. 日 時 令和元年11月19日(火) 13:30~16:30

2. 場 所 静岡庁舎 新館9階 特別会議室

3. 出席者 【委員】

田形和幸会長、植田眞委員、内山和俊委員、小泉祐一郎委員、小島孝仁委員、坂野真帆委員、杉山茂之委員、鈴木貴子委員、西尾真治委員

【行政】

岡山観光・国際交流課長、岩田歴史文化課長 他

〔事務局〕

大長総務局理事、初田総務課長、降矢行財政改革推進係長、金原主査 他

4. 会議内容

(1) 開 会

(2) 議 事

ア 「歴史・文化資源の連携と活用」による地域経済の活性化の実現に向けて

(3) 今後のスケジュール

(4) 閉 会

審議会内容は以下の会議録のとおり

田形和幸会長：早速だが次第の2の議事に入る。前回、現地視察と所管課からの説明を受け、諮問のテーマである「『歴史・文化資源の連携と活用』による地域経済の活性化」を実現するための議論のポイント等について、皆様から様々な御意見をいただいた。今回は、前回の議論を振り返りつつ、それを踏まえた上でさらに議論を深めていきたい。まず、前回までの意見と今回の議論のポイントについて整理した資料について、事務局から説明をお願いしたい。

《事務局から説明：略》

田形和幸会長：それでは、資料2の今回の議論のポイントに沿って、まず議論の前提を踏まえた上で、「議論1ターゲットについて」御意見をいただきたい。

内山和俊委員：資料1の論点1、小泉委員の「石垣などの本物の資源を打ち出し」というところの関連だが、10月9日にNHKの歴史秘話ヒストリアという番組が放送され、かなり反響あった。インターネット等で検索すると、石垣探訪というツアーがあり、それを見て千葉から参加された方がいる。石垣については400年の時間が経過しているから刻印が見にくくなっている。そういうものの保存、どういう状態がいいか分からないが、これはかなり人気があるものだから、保存についてもしっかり対応した方がいいと思う。

小泉祐一郎委員：論点1と議論1はセットになっているのか。

事務局：ここは対応していない。

小泉祐一郎委員：今日は資料2の議論の所を話し合うということでよいか。

事務局：そうだ。

田形和幸会長：色々な意見を出しやすいうように事務局の方で考えてきてもらった。何かをターゲットにした方がいいのではないかと、収益面も含め、当然市にしても財政の問題がある。そういうものを加味しているのだと思う。

内山和俊委員：ターゲットということの関連で、私は駿府ウェイブという観光ボランティアガイドの団体に属している。そこで時々企画ウォークをやるが、申込者の特性を調べると年齢は50代から70代、男女比は大体同じで、静岡市あるいは近郊の方が参加されている。

小島孝仁委員：ターゲットとしては、若者とインバウンドがいる街というのは、先日のラグビーワールドカップの期間を見ても、街の中を欧米人が歩いているだけで街の風景がだいぶ変わったと感じた。街は建物のハードの上に、どんな人が歩いているかで最終的な風景が決まってくる。若い人、30代くらいの子育て中の夫婦が集まる街というのは3世代に渡って呼び込めると思う。アクティブシニアだけでは若い人が一緒に来にくい。やはり若い世代を狙い、上の年齢層の方々も一緒に来てもらうというのがターゲットとしてはいいのではないか。

小泉祐一郎委員：国内のターゲットとすれば、小学校中学年の子どもとその親、もしくはその祖父母が考えられる。こういった歴史文化施設は教育的要素があり、子どもの教育に熱心な人達という意味では一つの典型パターンではないか。そういう人達への対応はひとつ必要だと思う。インバウンドも重要で、インバウンドへの対応はどうか。メインターゲットは2、3あって、それに応じて違ってくると思うが。

西尾真治委員：超高齢化社会において圧倒的にシニアが多くなることを考えると、シニアがターゲットの中心になるのは間違いない。もう一つのターゲットは子どもやファミリーだ。とかくどちらかにターゲットを絞りがちではないか。そうではなく、それをセットにしたような観光客像を描いたらどうか。ファミリーに加えておじいちゃんおばあちゃんと一緒に来てくれることを想定して、高齢者も移動しやすく休憩しやすく、子どもも遊ばせられるような、共存、両立している施設。明確に両方が混ざった姿をターゲットとして描くことが一つに考えられるのではないか。

植田眞委員：今までも静岡市はイベントを多くやっている。大道芸など色々があるが、かなり人が来ている。それと歴史文化資源というものと、位置付けがよく分からない。イベントの方は家族で来てもらうということがあがあるが、歴史文化施設は何をやったらいいか。単に施設を見てももらうだけでは面白くない。一つの意見として、今結婚式などで写真を撮るのが流行っていて、それ自体単価が高い話だ。駿府城公園やお堀などで結婚式ができるようになれば、若者が来るのではないか。シニアだけでなく、もちろん親世代も来ると思うが、歴史文化施設に若者も参加してくるのではないか。若者が来てもらえるような状態にしたらいと思う。

坂野真帆委員：歴史と言うとどうしてもシニア層を考えるし、異文化を体験ということではインバウンドも考える。しかし、私がインバウンドのお客様と接する中で、ヨーロッパや中国の歴史はとても長く、静岡や日本の歴史のことをフウンと思う方も結構いらっしやると感じている。シニアの方で歴史好きというのはもちろん層としては多いが、年齢で区切れるものではない。私は市の文化財資料館の運営委員長をしているが、ここ数年、来場者の数より驚いたのは、幕末の攘夷の御楯組血盟書の展示をした時に、どこでどういう風に情報を得たのか、九州や東北から全国の若い女子がこぞって来られて、ツイッターなどのSNSで今回は何が出ているという情報が飛び交っていたことだ。血盟書をデザインしたバッグやイヤリングを販売している所もある。そういうことを考えると、今までの歴史だから誰がターゲットかと考えるのとは別の世界がある。刀剣を展示した時は刀剣女子が押し寄せた。刀剣乱舞のようにネット上のゲームなどの影響が大きいと聞く。武将などもそうだ。何かストーリーの中に入り込めるようなことがあると、今まで考えられなかったような層の方が来る。そういう意味では次の（論点の）ブランディングにも関わるのかもしれないが、テーマ設定で新たな層を呼べるのではないか。今までの静岡市は、歴史的な資源が豊富なのでどうしても総花的になりがちで分かりにくいところもあったが、総花の一つ一つが歴史的にも価値があり、ストーリーを語れるものなので、そういうものを一つ一つ強化することで年齢に関わらず来てもらえるのではないかと感じている。オタクな方たちというか、マニアを呼び込む。色々なマニアが来ていただけるようなカテゴリーを複数作るのがいいのではないか。

今、巽櫓で今川氏の企画展をやっているが、そこに訪れた方がどこから来て、これからどこに行くかというアンケート結果を聞くと、この後岡崎城へ行くとか、小田原城からここに来たとか、市内をどうネットワークするかということ突き抜けた行動をしている。浜松城や掛川城、山中城などは大体セットにして一日で回るらしい。歴史好きな方、百名城を追っかけているような方、そういう方の動きをよく見ていかないと、中だけでちまちまとしているとこちらが乗り遅れてしまうかなと思った。やはりテーマを設定して、これを目掛けて来ていただける人をどう作っていくかを考えていきたいと思った。

杉山茂之委員：今回のテーマはすごく難しい。この後の議論4にも出てくるように、宿泊して夕食を食べてもらい、少なくとも1泊2日で来てもらわないとなかなか静岡市の経済

には良い影響を与えない。1点しかないとどうしても日帰りになってしまうので、何を立たせるかというのをもう少し検討する必要がある。これだと静岡にどう来るかという議論に聞こえてしまう。歴史と言っても何を見に来るかということになると思う。何を見に来させるのか、その議論が重要で、コンテンツの組み合わせやテーマも含めた強化が必要ではないか。今回のテーマには頭を悩ませていて、なかなかいいアイデアが出てこない。

小島孝仁委員：ターゲットは年齢で区切るというよりは、来てもらいたいターゲットというのは上品でマナーが良く、お金を落としてくれる旅行者だと思う。その人たちに静岡をどうやって発見してもらい、長く滞在してもらおうかという中で、歴史をどう使うかということだ。海外で販売されているガイドブックに静岡市は載ってこない。やはり静岡は富士山が最初の入り口になると思う。今回のラグビーワールドカップ期間中に宿泊していただいた欧米の方々にヒアリングすると、多くの方が1泊では少なかった、もっとのんびりしたかったとおっしゃった。静岡はどうだったかという質問に対しては、東京や京都など色々と回って来た方が多かったので、人が少ないということと、人と近いということ、その辺が非常に良かったという声が多かった。

少し話がずれるが、先日大道芸ワールドカップがあったので、その期間に宿泊されていた方、大半が日本人だったが、一応全員のお客さんに大道芸が目的で来たのか聞いてみた。すると、大道芸が目的で来た方は1組もいなかった。ああいうイベントで、街に人は賑わっているが、お金が落ちているかどうかというと、街中の商店の方に聞くと、逆にイベントの時の方が普段のお客さんが来なくて売り上げが落ちるという声も多い。それは、日常使いの商品構成にしているお店が多いということももちろんあるが、イベントだけではなかなか経済効果が計れず、実際に潤っているかどうかは分からない。

また少し話がずれるが、するが企画観光局が全国で行ったアンケート調査で、旅行の目的地についての質問でいくつか項目がある中で、自分が行きたい所よりも恋人が行きたい所、奥さんや子どもが行きたい所、一緒に行く相手が楽しめる、喜ぶ所に行きたいというのが一番だったと記憶している。そういう中で、静岡に行く目的をどう作っていくか。歴史の見せ方は実物がないとすごく難しいと思う。こうしたらいいだろうと思っていることはあるが、実現させるのは難しいかもしれない。

田形和幸会長：ターゲットについては、どういう方に来ていただくかという議論と、どこかの施設を中心にして人を集めるという議論がある。11月初めに名古屋に行ったのだが、名古屋城があるからその周りに行ってみようと思い、次の日は犬山城に本丸御殿を見に行った。ご家族で来ている方もいる中で、お金を持っていて支払いをするのはやはりその祖父母達だ。子どものため、孫のためならお金を使ってもいいと思っているということはあると思う。小泉委員からも話があったように、子どもの歴史の勉強のために、ご家族で登呂遺跡や久能山東照宮に行くケースもあれば、インバウンドの方が来るケースもある。ターゲットとしてどういう人を連れて来るかは絞りにくいかもしれない。ターゲットに合った観光施設なり史跡を見て回れるものを作る方がいいかもしれない。例えば、駿府城

公園に本当に駿府城があれば、あるいは天守台ができていれば、そこにまず行って、それから周辺を回ろうという風になる。それから、やはり泊まってもらわなければいけない。今日も午前中に大阪からお客さんが見えたが、これから帰ると言う。お泊りですかとも聞かすが、大体が日帰りです。便利な所ではあるが、泊って、お金を落とすように、色々見て回れる場所を作らなければならないと思う。お金を落とすてもらおうということと、その施設を使って地域が潤うようにしていくことが大事だ。

先週仕事でベトナムの日本語学校に行ってきた。20代前半の日本語学校の生徒達から、どこから来たのか聞かれ、静岡だと答えてもあまり分かってもらえないが、富士山と言えば分かってもらえる。静岡は気候が良くて行きやすい場所だということも分かっている。東北のように冬だと行きにくいということはない。だから静岡で仕事がしたいと言う。ターゲットということでは、どこかの施設をターゲットにした方がいいのか。1泊から2泊程度のもので、資料3にエリアが書かれたものがあるが、ご家族をターゲットにするのか、インバウンドをターゲットにするのか、あるいはシニア層がいいのか。どういう形があるか皆さんの方で他に何か意見はあるか。

小泉祐一郎委員：どちらかと言えば日本人になってしまうが、一定のグループ客、団体客については昼食や多少の土産物の需要がある。静岡の人はグループでバスを仕立てて外には行くが、外から引っぱって来ることについてはなかなかうまく行っている所が見つかからない。草薙の店では、バスが4台入り、宴会場が4つあり、20人から30人の団体客がバスから降りて来る。昼食を食べたり、温泉に入ったり、こういう施設はグループなり団体で行く時の幹事がコースとして設定するには比較的便利な施設だ。そういう意味では、グループなり団体の受入をどうするか。地元の昼食を取る場所、温泉施設などについては、民間企業とタイアップして割引券を発行するとか、早い話が幹事を捕まえて情報を流す仕組みが必要だ。静岡に来るとなったらセットでこういう情報を流すとか。そういうのも一つのターゲットにするといいのではないか。

西尾真治委員：少し違う視点かもしれないが、坂野委員がおっしゃったように思わぬ人達に注目されたりするケースがあると思う。直接どのターゲットに絞るかという議論も重要だが、そもそもどういう人たちに刺さるかが分からない状況では、もう一段上というか、発信力のある人にターゲットを絞って、そういう人たちが静岡の魅力をどう紹介し、発信するかどうかというのをリサーチする中で新しいニーズや顧客像が出てくる可能性があると思う。

田形和幸会長：事務局の方とすると、どういう人とか、どういうグループとか、そういうターゲットも一つだし、あるいは資源を一つターゲットにして回遊させるということもあるかもしれない。その辺りはどのように考えているのか。

事務局：人、観光客の層というところをターゲットとしている。特定の層あるいは広くいくつかの層をターゲットに設定して、それに合うようなサービスを提供していくということを考えている。

田形和幸会長：皆さんの意見にあったように、ターゲットを家族にするか、マニアにするか、それによって次の考え方が変わってくる。その人達に合うものをイメージして作っていくことになる。宿泊施設についてはどうなのか。静岡には結構ホテルができてきているが。

杉山茂之委員：うちも含めて1,100室くらい増える。ただ、稼働率は間違いなく下がる。インバウンドが増えていないからだ。そういう意味ではインバウンドを含めて観光客が来ないと厳しい。我々がどこかに行く時、海外にしても国内にしても、何かを見に行きたいと行って行く。何かというのがなかなか分からない。ターゲットもそうだが、何かというコンテンツをもう少し強くしないと、ここに行ってみたいと思われぬ。どう組み合わせるか、他に違う強みを作って加えていくとか。

田形和幸会長：信用金庫協会は60歳以上のお年寄りの方が多い。ある信用金庫はお客さんを15,000人ほど静岡に旅行に連れて来てくれる。今日も東京の信用金庫のお客さんがお見えになっているが、東京からバスで来て、夢テラスに行き、三保の松原を見て、宿泊は市外に泊まるという。日本平に来たのだったらホテルで食事でもするのかと思ったが。ある信用金庫は毎日、1カ月かけて3,000人のお客さんを連れて来たが、その時も伊豆に泊まられた。明日はどうするのかと聞いたら、さかなセンターに行って買い物をして、昼は由比で食べて帰るといふ。1泊2日だが、年齢層によってはそういう方もおり、全国から静岡に来てくれている。どういう発信をしているかという点、宿泊施設の方は色々な所に売り込みに行ったり、私たち業界の方は色々な所で会議があると、静岡にこういう所があるから来てくださいと紹介する。年齢層によって行く所が違う。夢テラスに来たのだから久能山東照宮に行くのかと思ったら行かない。アピールが足りないのかなと思った。来てくれていることは来てくれているが、うまく回遊していないと感じる。歴史文化施設もアピールが必要で、何らかの魅力を発信した方がいい。いろいろな御意見があり絞り切れていないが、時間の都合もあるため、事務局の方でまとめていただきたい。

田形和幸会長：次に議論の2に入る。事務局から説明をお願いしたい。

《事務局から説明：略》

小島孝仁委員：ブランディングとは何かという問題が前提で必要だと思うが、愛されるものとか、誇れるものとか、そういうものだと思う。いかに街がそうなるか。要は誇りに思えるか。それは自分たちだけが感じているのではなく、外から見ている人に対しても誇れるという事だと思う。ターゲットに戻ってしまうが、より遠くから、世界から感度の高い人達を呼び込むことになると、他にはないコンテンツが重要だ。静岡は何か。海と一緒に富士山を見せる。これは他にはない。山梨県でもできない。富士山をどう使うか、海とセットでどう見せるかということだと思う。それが船の上、船も色々なタイプがあり、大きな漁船から、海岸から、港から、いろいろな見せ方があると思う。夕方になると赤富士、夕

方にしか見えない富士山もあれば、朝にしか見えない富士山もある。富士山は夏は登る場所であり、秋から冬にかけては見るものだというイメージをどう作っていくか。それをどこから見せるか。それが静岡の他の地域に持っていない大きな武器だと思う。

外国人の言葉でよく耳にするのがピースフルという言葉だ。静岡は非常に人が少なく、近くて、平和で街歩きがしやすいという総合的な意味でピースフルと言っているのだと思う。滞在するにはすごくいい場所だ。拠点性があり、移動範囲もすごく広い。外国人はジェイアール・パスを取得してくると一カ月間 JR が乗り放題になる。外国の多くは電車での旅がすごく不便という印象が強い。時刻通りに来ない、乗り継ぎに間に合わないからその日に行きたい所に行けない。その点、日本は電車が非常に便利で、電車での旅がしやすい。すごく行動範囲が広い。東京からでも名古屋からでも新幹線のひかりを使えば1時間で来られる。そういうことは日本では当たり前だが、海外では知られていない。東京からどういう位置関係なのかとか、そういう発信と合わせて、静岡に来て何日か滞在するとこういうものが見られるという発信をする。先週うちの社員がオーロラを見に一週間仕事を休んで行ってきた。オーロラは見えなかったようだが、見えなくても1週間滞在してくるのだと思った。富士山を見るために何日か滞在させるとか、そういう方法もあると思う。富士山は紛れもないブランドだ。

植田眞委員：ブランディングとそのターゲットについては、富士山であり駿府城なのではないか。この二つにターゲットを絞ってブランディングした方がいいと思う。内山委員が言われたように NHK で駿府城の天守台のことを、家康と秀吉の関係も含めてやっていたから、そこら辺も利用して、要するに駿府城も少し売り込む。駿府城から見た富士山、それからもちろん三保から見た富士山、海から見た富士山も必要だろうし、駿府城そのものもまいこと家康にくっつけて物語を作る。物語は色々あるだろうからそれを掘り出して、ブランディングする。そのような形が一番いいのではないか。静岡人よりも静岡以外の人達が富士山を見たいというのがすごくある。夏に来てもなかなか見られないからもう一回来るということもある。やはり富士山と駿府城を中心に売り出すことが必要なのではないか。

小泉祐一郎委員：資料4に「首都駿府と世界」とある。世界的な都市で実質上の外交を家康が大御所になってここでやっていたということで、一つがここは何かと言った時に、まさに首都だと。プラモデルについては首都だと宣言しているが。首都の駿府という所と、日本のシンボルである富士山、それらをセットにした打ち出し方はどうか。海外に行った時に、静岡とは何かと聞かれたら元の首都だと言う。実際には首都が置かれたわけではないが、要は首都機能を果たした所で、そのお城があるということだ。今度の施設から富士山がどう見えるか分からないが、富士山があるということで、やはりそこは一つのブランドとして発信する要素だと思う。

鈴木貴子委員：昨日東京でカナダ人とオーストラリア人の観光関係者や学校関係者の方と話した。名刺交換の際、ほとんど来ている方が東京のエージェントである中で、私が唯一

静岡から来ていた。大体カナダの方やオーストラリアの方が、静岡はどこかと聞いてくる。新幹線で1時間の所で距離的に180キロくらい離れているという話をした。その中で昨日富士山を見に静岡に行ったという方がいた。どうやって静岡を知ったのか聞いたら、静岡の人から富士山の話聞いて、日程的にも1日で行ける場所を考えていた時に、新幹線で行くことができ、三保松原から富士山が見えるということで清水に行ってきたと言う。とてもきれいに富士山が見えて、短時間の滞在という点で魅力的だったと話していた。他方で他の方々と話していると、東海大学と同じような海洋生物学や水族館学あるいは動物園学などのプログラムを持つ世界的に有名な大学の人達と話している時に、こういう大学が清水にあるのであれば、何か交流できないかという話が出た。ただ、残念ながら静岡がどこにあるのかが分からない。結局、皆さんが何で探すかという、富士山だ。その次にお茶だったりする。富士山をメインに出すのであれば、富士山プラス何にするのかをもう少し明確にする必要がある。一つのコアとしてあり、そこからプラモデルがあったり、お茶があったり、食があったりしていくと思う。あとプラスアルファするとすれば、10日くらい前に世界お茶まつりの仕事で外国人の方の仕事をしたが、やはり静岡はお茶所で、すごくいい小規模茶農家があり、観光ツーリズムでもとても魅力的だということを手のお茶会社やお茶の専門家の方々がおっしゃっていた。お茶は世界で水の次に多く飲まれている飲料だと言われている。そういう点で、世界に広く静岡のお茶を発信することで誘致することができるのではないかと感じた。

もう一点、歴史のことが少し出てきたが、家康の頃は、イタリアのルネサンス期とかなり重なる。府中の時に全国から色々な専門家の方が来て、日本の文化の中心地になっていたということだ。日本のルネサンス期に当たる所でもあるということの魅力がある。ただ歴史だけで言っても外国人にとってはよく分からない。残念ながら今川と言っても徳川と言っても、余程日本の歴史が好きでない限りは単なる将軍であり、誰なのかも分からない。それよりも、ルネサンス期であり、そこに将軍がいて、そして彼らが全国の竹細工や蒔絵の専門家を呼び、それがさらに磨かれた場所であり、そして今、駿河の竹細工という伝統文化として残っているということをしてPRできると思っている。

内山和俊委員：どうしても歴史文化施設というものを前提として考えると、徳川や今川をテーマに、それが一つの方針になっていると思う。隣接する駿府城や浅間神社という近くのエリアをターゲットにしてそれをやってみる。色々な人が来る。百名城というのがあり、駿府城は41番目だが、それだけを目的にして朝一で来て、それでまたすぐ静岡から別の所に行く人も多い。時間がある人は、駿府城を見た後に浅間神社や臨濟寺に行くこともある。伝統文化が残っているということでは、浅間神社の彫刻類は非常に素晴らしい。富士山も日本平の夜景も非常に素晴らしい。あそこから見える夜の富士山と清水港には非常に感動する。

田形和幸会長：先ほど大道芸の話があったが、来て楽しいけれど宿泊はしないで帰ることがある。今回も何かに合わせてイベントをやるということも考えた方がいいのか。静

岡まつりはやっているが、それが歴史文化施設とつながっているかというところだろうか。論点2の「ブランディングや収益に結び付くネットワークのために連携させる要素」という中に、歴史資源、食、イベント等とあるが、その辺りについてはどうか。

内山和俊委員：食について情報提供となるが、いわゆるしずまえというのがある。石部から由比、蒲原まで行く静岡の前浜で採れるものだ。しずまえ振興協議会というのを水産漁港課でやっているが、色々な視点で色々なものが研究されている。用宗部会に行くと、用宗のアカモクという海藻と丸子のとろろを合わせると健康と美容にいいということで開発している。しずまえ、オクシズ、そういう静岡の特徴的な食をもっと活かしたらどうだろうか。

小泉祐一郎委員：昨年、登別温泉の宿泊客を増やすための毎晩行っているイベントの調査に行った。あそこには観光案内が業として成り立っている珍しい会社がある。30分程度の短い時間で夜のイベントがある。例えばプロジェクションマッピングなど夜の良さを利用したイベントが考えられないか。県の駐車場の壁も使えるが、今回の歴史文化施設の外壁を使って夜にプロジェクションマッピングで季節や時期ごとに何か見世物をやるとか。以前、西尾委員が石垣の所に映像を使って天守台を再現するという話があったが、夜であればそういうこともできる。そして、夜店のようなキッチンカーが出ていて、立ち食いができるとか、少し飲めるとか。あまり大規模でやるとお金がかかるが、長期的にある程度成り立つような形で、映像などとセットでやるといいのではないか。登別では夏はできるが冬は寒くてできない。静岡では結構いつの時期でもできるだろう。

坂野真帆委員：静岡市の観光を考えた時に、静岡市を目掛けて来る方がどれだけいるか。どちらかというところについて観光みたいなことが需要としては大きいのではないか。富士山は唯一無二、富士山があるから静岡を選び、富士山が見える所を巡る観光がある。富士山はキラコンテンツだと思う。歴史もそのように、その歴史のことを目掛けて来るような人を作るというのも一つかなと思う。どの位のボリュームがあり、経済的な貢献度がどれだけかは分からないが、意外と趣味にはお金を出す人が多い。先程も話があった世界お茶まつりで弊社もお茶ツアーをやっているが、4日間ずっと静岡に滞在してお茶漬けという方が複数人いらっしゃる。そうすると、夜も何かしらお茶に関連した食事がなくとか、お茶まつりはグランシップで開催されたが、そこだけではなく他の所でも何か、ということで、弊社のパートさんが夜茶会というのをやって、みなでお茶を持ち寄ってコミュニケーションの場を作った。20人程度しか入らない狭い所だったが、連日押すな押すなといった感じだった。マニアが集まってみなで楽しくワイワイと。歴史を立てていくとすれば、いくつかあると思うが、それにとことん、これのメッカだと言うくらいにしていく。家康公もそうだし、今川氏もそうだし、ここにしかない資源として歴史はあるわけで、そういうものを立てて、朝から晩までそのことについて浸りたいと思ったら浸れるようなことができるといい。食事もそうだし、土産もそうだし、どこかに行ったらそれについて一緒に話ができるような同胞に会えるとか。ここに行ったら自分の欲求を満足させることが

できるくらいの聖地になると、それを目掛けて来る。静岡にそのことを満喫しに行くというふうな方が出てくる。そういう風にしていかないと新しいお客さんを呼び込むのは難しいと感じる。目立ってくると、そこまで興味はないが、こんなものがあるらしいから行ってみようという人が段々増えていく気がする。トップを立たせるというのも方法としては一つあるのではないか。

田形和幸会長：確かにどんな建物ができるかが重要かもしれない。富士山をテーマにすれば、屋上から富士山が見えるとか。単純に囲ってしまって、中の施設だけにしてしまうと勿体ない。富士宮に富士山遺産センターがあるが、やはり上まで上がって富士山が見えるようになっている。せっかくここが造られるのであれば、歴史文化の一つの拠点になると思うし、やはり富士山が見える方がいい。この高さから見ても天守台は見えない。どこか一カ所、天守台が見えて駿府城公園が一望できるような場所が必要かもしれない。静岡にはお城がないという中で、鉄筋コンクリートであってもお城があった方がいいと個人的には思っている。それで目指して来る方もいる。お城を巡るという話があったが、私もどこかに行った時にお城を見に行くのだが、そういうのも必要だと思う。

歴史文化課長：施設の設計を今やっている所だが、今の話の中で少しお話ししておかなければならないことがある。今、このフロアから見える富士山はとても良い。方角的にはこの方向に窓を設けるつもりだが、この高さの確保は難しく、大分差がある。今3階建てを考慮しており、旧青葉小学校の屋上の高さからだと、宝永山より上が山の向こう側に見えるぐらいの状況にはなるが、その高さが確保できるかどうかというところで今やっている。私たちが富士山はできれば見せたいと思っているが、決してこんなに大きく立派なものが見えるようにはならない。その代わり、駿府城の坤櫓がある場所の前は富士見広場と呼ばれていて、少し標高が高い位置にあり、周りに高いビルもないため、富士山を天守台の向こうに見ることができている位置になっている。そういった場所をセットにしていくことで、何とか駿府城と富士山を見せられるかなと思っている。歴史文化施設の中からは残念ながらこういう景色は見えないということが今の時点で分かっている。3階建てについては、今ある駿府城の巽櫓や周辺の街並みとの調和を考えて、高い建物は合わないだろうと、そういうコンセプトの中で決まった高さだ。それから県庁の駐車場よりも高くしたくなかったということもある。

鈴木貴子委員：少し後ろ向きな発言になるが、今富士山というのが一つのキーワードとなっているが、実は富士山がきれいに見えるのは11月から3月までの約半年間だ。4月から10月までの半年間、夏の間はガスがかかっている、雪がない。そもそも気候的にあまり見えなくなってしまう。がっかりしたお客さんも多くいて、静岡に失望してしまうのは残念だ。春から夏の間は富士山が見られないとなると、富士山をキーワードにした集客は非常に難しい。それによってマイナスイメージにもなりかねない。だからそれにプラスして何らかの形の代替案を考えておく必要があると思う。今の季節でも毎日インバウンドのお客さんがアップする SNS の写真を見るとほとんどが河口湖から見た富士山だ。残念な

から静岡市あるいは静岡県のどこかから写された写真はあまり見ない。そういった意味でも、静岡側から見せる富士山の良さ、一番きれいなのは三保の松原かもしれないが、それ以外にも富士山の絶景、インスタ映えするポイントをまとめて紹介することも検討すべきだ。

田形和幸会長：小島委員からオーロラを見に行った話があったが、オーロラを一日ではなく何日かの滞在期間の中で見ることができれば良いと思って旅行に行くということだった。確かに富士山が見えない時期があるので、その間は静岡のどこかを周遊してもらい、静岡に2、3日泊っていただけるようになるとありがたい。その間に富士山が見えれば良い、今日見えなくても明日も明後日もチャンスがある、そういうことを私たちも考えた方がいいかもしれない。

田形和幸会長：1時間経ったので、ここで一旦休憩を取りたい。

《休憩》

田形和幸会長：続いて議論3「ネットワーク化の方法と継続」について事務局から説明をお願いしたい。

《事務局から説明：略》

小泉祐一郎委員：これから来ようという方に対する案内機能と、既に来ていて、次にどこに行こうか、この辺りで昼食を食べようか、という方に対する案内機能は分けた方がいい。まず、既に来ている方の場合だと、ある程度大まかな予定は決まっていて、よくあるのは2時間くらい時間が空いているからどこに行こうかというものだ。私が軽井沢の観光案内で調べた中で一番多いのは、おいしいラーメン屋はどこかというような昼食を食べる場所だ。どちらかと言うと、もう軽井沢に飽きてしまって、あとは昼を食べる場所を探すというような、そうした既に来ていての方に対する案内。しかし、展示を見ただけでそこに行ってみよう誘うのはなかなか困難だ。観光案内ブースに立ち寄って聞くという方ばかりではないから、どちらかと言うと雑談ができるようなスペースや休憩場所などで、雑談しながら誘うのがいい。歴史文化施設であれば入り口に近い無料スペースの一角にそうした場所があればいい。これから来る方については、団体であれば昼食会場や他の店舗も含めて案内することになる。昼食会場になっている飲食店と連携して、そういうコンシェルジュ機能を発揮するとか。そうすると、機能を発揮するための連携組織が必要で、そういったものをするが企画観光局が、直接やるのではなく、協力してくれる所と連携して、コンシェルジュ機能を果たす核になる要素を持つ必要があると思う。

坂野真帆委員：資料1の論点と今回の議論はリンクしないという話だったが、5、6、7については次回にということなので、リンクしているというかしていないというか。

事務局：資料2の左側の論点1から4を集約して、この議論という形でまとめている。右側の論点5から7の要素は今回入っていない。

坂野真帆委員：今、小泉委員がおっしゃったような事前のコンシェルジュ機能というか、情報発信というのは次回ということによいか。

事務局：次回の要素にもなり得る。

田形和幸会長：施設を見せていただいた中で、お堀の所に水を抜いてレストランやカフェを造るという話があった。小泉委員がおっしゃったように、どこか休む場所やスペースを考えてそういうものを造るのか。

事務局：都市局の市街地整備課の取組として行っている。

田形和幸会長：どういう目的で造るのか。

事務局：観光客の誘客だ。

田形和幸会長：運営は民間に任せるのか。

事務局：民設民営だ。

小泉祐一郎委員：するが企画観光局さんの部分と、あとは駿府ウェイブさんのような人たちがいる場所というか、そこで活躍できるというような部分の両方が必要かなと思っている。

田形和幸会長：観光機能ということでは、静岡駅を降りた時に分かりにくいという話があった。駅を降りた時に、右か左かどちらに行けばいいのか分からない。何かうまくいくものがあれば。例えばJRに協力いただくのも一つだ。ただ、JRの広告は高い。案内機能、ガイド機能も含めて皆さんから何か意見はあるか。

内山和俊委員：駿府城の中のガイド機能ということでは、土日祝日に10時から15時まで、3箇所、東御門の下の場内案内所に2人、東御門の展示場に2人、あとはきゃっしる（発掘現場）に2人ついている。あとは、月に1回タブレットを使ってバーチャルリアリティの形で駿府城をタイムトラベルという形で案内するものもある。

田形和幸会長：ボランティアでやっているのか。

内山和俊委員：そうだ。

田形和幸会長：逆に皆さんは、どこかに行かれる時はどういう形で情報を取っているのか。どういう形のものをコンセプトにして探しているか。私はガイドブックに観光局の電話番号が載っているからそこに電話して、どこが何時から空いているのか、どうやって行けばいいかを聞いて計画を立てる。

植田真委員：私はパソコンやスマホを見て調べる。でもなかなかそういう人ばかりではない。歴史文化施設へ駅から行くのは大変なのではないか。行き方が分かりにくいということが一番心配だ。そこら辺の工夫は何かあるか。

田形和幸会長：鷹匠に住んでいるが、静岡駅から真っすぐ降りれば北に向かえばいいが、アソシアのホテルから出てきて伝馬町小学校の横を上がってきた方から駿府城公園の行き方を尋ねられたが、説明するのが難しかった。施設へ行くための案内看板などはあるのか。

例えば駅を降りた時に、公園まであと何キロとか電柱に貼ってあったりすると分かりやすいと思うが。

鈴木貴子委員：若干地下道にある。

田形和幸会長：そういう駿府城公園に誘導するような案内を壁に付けるのも一つかもしれない。

小泉祐一郎委員：静岡市でいいなと思ったのは、旧東海道を案内する表示で、草薙周辺は非常にうまくできている。歩道そのものに貼り付けてあって非常に分かりやすい。あれはどこでやっているのか。

内山和俊委員：丸子にもある。旧東海道シールで、意匠自体を変えている。

観光・国際交流課長：２種類あり、路面シートと、民間さんの壁などに貼っていただく路面シールだ。東海道は曲がり角が分かりにくい所がたまにあるので、特にそういう所にシールを貼って、旧東海道を歩いていただけるような形にした。東海道はずっと横に繋がっているから、我々の行政区域のみならず、そのネットワークが横へ、東西に広がっていけばいいということで、今藤枝も一部でやっていただき、富士については富士川町の所で少し貼られていて、これから徐々に広がっていくといいと考えている。

小泉祐一郎委員：東海道の松をイメージしていてデザイン的にも分かりやすい。統一デザインでうまく案内していけるといい。

田形和幸会長：静岡市はマンホールでは何かやっているか。

内山和俊委員：ちびまる子ちゃんのマンホールを作っている。

坂野真帆委員：長崎さるくを見に行った時に、地図と実際の場所の表示が呼応している。デザインと記号などの表示が呼応しているものが街にちゃんとあるので、ガイドさんが付かずにマップを持って迷わずに歩くことが可能だ。スマホを使う人も多いので、アプリや紙面と連動する形でサイン計画がきちんとなされるようになればいい。特に静岡は駅に着いてから地下に入ると、市民でもどちらに出ればいいのか分からなくなるという声を聞くから、うまく連動してできればいいと思う。今すでに観光案内としての機能は場所が分かりにくいといいながらもいくつかある。歴史をテーマにした形での観光案内機能という話であれば、さるくなどもそうだが、パッケージプランを案内する。地図だとかキット的なものとか、その一日をどう回ればいいのか分かる受付のような機能になっていて、そこに寄ると「一日中家康を満喫して過ごす」とか、普通の観光案内だけではなく、特別な情報、専門的な情報をきちんと提供できる、そういう機能を持ったらいいと思う。もちろんコンシェルジュのようにフレキシブルな人材もありながら、パッケージにすることによって、お金を払ってもらえる商品としてお出しできるのではないか。

田形和幸会長：静岡市のホームページでそういうものはないのか。

観光・国際交流課長：平成26年にホームページについては当時かなり議論があった。外部から見ていただくお客様は、情報を市の行政に取りに来るというより、一義的には最寄りの観光協会の方に見に行くことが多い。市が発信する情報というのは、きわめて面白くな

い。そこには当然、公平・平等感というものが満載だからだ。そこで、するが企画観光局に一元化するということになり、今静岡市の観光情報はそちらから一元的に情報発信している。当然カテゴリ別、あるいはトップページには検索の順位性を持って表示するような機能、あるいは行きたい場所をいくつか入れると自動ルートが表示される機能など、意外といろいろな機能を持ち合わせている。

坂野真帆委員：指令書ではないが、こういう風に歩くといいよとか、ここで何を食べるべし、ということも含めて、ビジネスにも絡んだ形で何か提供ができると面白いと思う。

観光：国際交流課長：今はまだそこまではない。

田形和幸会長：ある一定のお店を紹介することはなかなかできないと思う。そこへ行けば蕎麦屋がたくさん集まっているからその方面へ誘導するというのがあればいいが。食事というのはどうしても考えてしまう。来週京都へ旅行するが、翌日奈良へ行こうという話をしていて、昼食をどこで食べるか、そこで食べるのであればその周りを回ろうとか、そこから行ける範囲にしようとか、そういう話をしてきたから、意見を聞いてなるほどと思った。時間が2時間あるがどこまで行って来られるか、そういうのは確かに大切かもしれない。観光の案内機能というか、1時間だったらこのコースとか、そういうものがあれば確かにいい。

鈴木貴子委員：食であれば静岡といえば静岡おでん。以前は観光案内所に行くと、静岡おでんマップとか、静岡ナイトガイドブックのようなものがあった。それを見て市街から来た人たちは行くことができた。ただ、おでん横丁が夜しかやっていなかったり、日曜日にやっていないことが多く、日曜の昼に観光客がなかなか行けない。もちろん静岡おでんはもとも駄菓子屋系なので昼間にやっている店もあるが、そういう情報がまだ少なく偏っている。ナイトマップも夜に特化していて、協賛している広告主の店の紹介になっていることが多い気がするから、必ずしも静岡の美味しいお店が紹介されているわけではない。女子旅だと夜よりもランチだったり、静岡茶や静岡のフルーツを使ったスイーツを求めたりもしている。そういったものを、紙ベースでなくてもいいので、オンライン上で情報発信したり、あるいは周遊するのであれば昔のスタンプラリーではなく、アプリで少しずつ周遊していくという形で全部踏破していく、そういう形も面白いのではないか。

田形和幸会長：用宗ではどういう形でアピールされているのか。

小島孝仁委員：海外から来る方は電車で来るので、まず駅に着いて、そこにトゥクトゥクもしくはジャガーで駅の前で、プレートを出してお待ちしている。そこからレセプションに送迎するので、あとはマップを渡して歩いていただく。用宗に限らず街の中のコンシェルジュの役割をどこに作るか。観光客が困ることのもう一つはトイレで、結構トイレは探すと思う。正直、公衆トイレは入りたくない方がほとんどだと思う。民間でも維持費は結構かかる。公衆トイレは潰れてしまっていて、その分を近くの協力してくれるお店にいくらか費用を払うなどして、お店の前にトイレを使ってくださいというような分かりやすいもの貼り、それは市が認定したものとして出す。また、外国人観光客に来ていただいた時にも

きちんと色々案内するような店があれば、そういうマークを認定して貼る。直接そこで、街との触れ合いを感じてもらえる。しかも、こちらからぜひ入って来てくださいと言う。そういうものを街として作っていくことも観光客を受け入れていくことにつながる。しかも官民と一緒にやっていく。行政が造っていたトイレをなくし、その費用で民間のお店にトイレを貸してもらう。日本のトイレは素晴らしいと思われているから、トイレがこんなに可愛い、こんなにきれいだと、そういうものを見ていただくことにもつながるのではないか。

それから、今の同時翻訳機は性能がいい。ああいうもので相手と話をする。会話が成り立つのに苦労しても、それはそれで旅ならではの楽しい思い出になるものだから、そういう役割を民間のお店に担ってもらう手もあるかと思う。

観光・国際交流課長：トイレの維持費は2通りある。観光客が多いところでは、地元の一部管理していただく場合もあり、そこはあまり経費がかからない。行政がまる抱えする場合は、当然消耗品から清掃、電気、山の方へ行くと汲み取りまで必要なもので、かなりのコストがかかってくる。市内一円いたるところに観光トイレがあるわけではないから、かなり厳選して絞り込んで造ってはいるものの、やはり維持費がかかるのは事実だ。

小島孝仁委員：和式が多いが、それを洋式に変えるのにもコストがかかるから、一層のこと無くしてしまうのも方法としてはあると思うが。

観光・国際交流課長：今、小島委員からご提案があったものは、実はすでに先駆けて取り組んでいる自治体があり、特に京都などでは積極的にやっている事例がある。

内山和俊委員：どうしても最新なものを造っても年月が経てば施設が老朽化する。そうしたものが市内でも散見される。

小泉祐一郎委員：コンシェルジュの中身の関係で、今年は滋賀県の草津を調べに行った。中山道と東海道のちょうど分岐点で、本物の本陣が残っている。それから、伊能忠敬の生家が残っている千葉の佐原。両方に共通している点は、観光案内のバックには市や観光協会があるが、実際にやっているのはボランティアガイドで、それを支援しているのが市と観光協会だ。これがいいと決めつけているわけではないが、それでうまく行っているのは、観光ボランティアガイドなのでマップも自分たちの独断と偏見で作ることができる。市や観光協会が言うところの公平性ではなく、観光客にとって有益な情報を載せる。あとは有料で売って、そのお金でマップを改良していく。見ていると、同じマップなのに過去からどんどんお客さんのニーズに応じて改良している。するが企画観光局が直接案内する部分もちろんあるが、民間の団体を、ボランティアではあるが市や観光協会がもう少ししっかりバックアップして、歴史文化施設に資料を置くようなブースはただで用意して、逆にバーターで案内してもらおうとか。独断と偏見的な内容も含めた案内ができるように、そういう意味ではあまり役所と近すぎると難しいところもある。両方あっていいと思うのだが、そこでは両方に工夫が見られた。結局レンタサイクルのステーションの関係もそこがやっていた。市と観光協会以外に、ボランティア組織をうまくバックアップして頑張

ってもらふような姿が見られた。駿河ウエイブさんだけでなくもいいと思うが、そういう形でうまく連携やバックアップができるといい。どうしてもするが企画観光局や市だけだと公平性という点で一線を越えられない部分がある。下田の場合はそれを越えるためにどうしたかという点、市の観光協会がマップを擦り、その版を市内の人達がグループを作れば使ってもいいということにして、飲食店や観光業者の人達が集まり、原版に情報を付け足して地元の印刷業者に頼んで自分たちのお金でマップを作ったら、むしろそちらの方が活用された。最初は声を掛けたがほとんど乗って来なかったが、マップが普及するようになったら、うちもメンバーに加えてほしいと言われるようになって増えていった。民間の人達が活躍する場面を、行政がうまく支援していけるような仕組みがあればいいと思う。

鈴木貴子委員：静岡市のアイセルで女性向けのセミナーをやって、静岡の観光ガイドを育成したことがある。静岡市の文化財保存のサポーターや、英語でのおもてなしサポーターなどを養成しているので、彼らの活躍する場所として駿府ウエイブさんと一緒にコラボする。今の静岡駅の北口と南口にある観光案内所のスタッフは派遣さんだから、3年毎に交代する。それよりも、きちんと市のお金で市の魅力を聞いて学んで、自分から進んで学びたいと思い、それを活かして何かをしたいと思う人が参加されていると思うので、そういう人たちの活躍の場を作る。3年で入れ替わるスタッフさんよりも、長い間常駐できる人達もうまく入れながら、どうしても英語や中国語の対応については派遣さんやしかるべき契約社員を入れる必要があるが、今までやっていた市の取組とコラボするのがいいのではないか。

それから、静岡駅からの動線を考えた時に思ったのが、東京駅から地下道を通って東京中央郵便局のKITTEの建物に行く時に、インフォメーションエリアがある。まるで茶屋のように赤い毛氈を引いた日本的なものがあり、カフェやコーヒーショップがある。完全に道を分けているようで分けていない。情報エリアでは無料で色々な観光マップやパンフレットをもらえる。コンシェルジュも英語や中国語、日本語に対応できる人がいる。その横にカフェがあるので、もらった資料を読んだりできる。静岡の地下道に一茶があるが、一茶でお茶を飲みながら、インストラクターさんに観光のことを教えてもらうとか。あるいは横のピアノが置いてあるところに色々な情報が置いてあることで、お茶も無料で飲むのではなく、おいしいお茶をお金を払って飲んでいただき、お茶はどこで買えるかとか、茶農家さんのホームがどうなのかとか、おいしいお茶に合うスイーツはあるかとか、そういう情報ももらいながら、この動線で行けばあと徒歩10分で駿府城公園ですよ、さらにそこから20分位歩けば浅間神社がありますよ、浅間神社には7つのお社があって全部回るとどのくらいとか、時間まで教えてあげることによって、その日の半日なり一日の過ごし方を提案できると思う。

坂野真帆委員：あそこの一茶の隣のスペースは勿体ない。

内山和俊委員：丸子地区には丸子まちづくり協議会など地域で活動する団体がある。そうい

うところで地域の案内役をやっている。そういう団体は地域にこだわりを持っているから、非常に丁寧に説明してくれる。浅間通りにも歴史部会など色々あるし、Jo-Shizu 観光アンバサダーの皆さまも活動している。

田形和幸会長：時間の都合上、次に議論4の「各施策の検討」に移る。事務局から説明をお願いしたい。

〈事務局から説明：略〉

小島孝仁委員：外国人の旅行者の方、日本人の方も含めて、もう少し長く滞在したかったという意見が非常に多い。なぜそういうことになるかと言うと、自分もどこかに旅行して、その国を結構広い範囲で回遊しようと思った時に、あまり情報がない街で宿泊数を長くしてしまうと、もし何もなかった場合に無駄な時間を過ごしてしまうから1泊だけにしておこうと考える。おそらく静岡はそういう風に思われて、1泊だけ、ついでに、というケースが多いと思う。実際に泊まってみると、何をみたいかという目的もあるが、のんびりするにはすごくいい。のんびりしながら1日目にここに行こう、2日目はここに行こうと、それが寸又峡や富士山の距離であれば十分動いていただけるので、半日で行って来られる。3日間だったらこういう所に半日ずつ行こうとか、そういう情報を各ホテルのホームページ上で発信していく。旅行者は大体旅行サイトを最初に見て、その後にホテルを探し、ホテルのホームページを見て、ここに宿泊するかと考える。そういうところで発信していくといい。

小泉祐一郎委員：観光案内の方から、ここへ来たらこれを見ないで帰ったら損だと言われたことがある。草津だと太田酒造という所があり、観光ガイドの方に、太田道灌の末裔がやっていて、酒屋の2階は展示室になっているから、ここを見ないで帰ったら損だと言われた。結局そこに行ってお酒を買って帰ってきた。佐原などでも伊能忠敬の所へ行くと、このお店のこの女将さんに会わないと損だと言われた。月並みだが、行ってみたら何か新しい発見があり、ついでにもう一つ行くということになり、昼食のためにお弁当を買ったりする。実体験からすると、そういう案内が実際に行われるかどうかで、その日の行動が変わる。

鈴木貴子委員：滞在時間の延長を考えると、今の時代、ことエクスペリエンスが大事でそれを期待している。静岡に来たら静岡ならではのことを体験する。例えば、少し遠いが、うまく交通機関を利用し、外国人や鉄道利用者だけでなくマイカー利用者も考えれば、新東名などを使ってオクシズまで行っていただき、オクシズの自然の中でトレッキングやハイキングを体験していただいたり、オクシズの在来種の野菜や蕎麦、蕎麦打ち体験を楽しんでいただくこともできる。

あとは民泊の一つで、農家泊というのが最近流行ってきている。古民家の農家に泊まりな

がら、農家の人達と触れ合うことが清水の両河内の方でもできる。そうしたことをもう少し増やしていく。滞在のうちの1日ないし2日は静岡の郊外で楽しんでいただき、残りは街の中で歴史文化施設とか街周辺を散策したり、登呂遺跡に行ったり、グルメを楽しんでいただくこともできるのではないか。

杉山茂之委員：非常に交通が良い。県外から来る方にとって東京行きの最終が22時半で、ほとんど泊まらずに皆さん帰られる。京都行きも21時頃まで新幹線がある。いかに泊まってもらおうかという、夜の食事もそうだが、夜に1件2件と行けるような何かがないか。それから朝は、朝市のようなイベントか何かを作るとか。少なくとも規模として500人とか1000人位が一晩で泊っていけるキャパがこれから増えていく感覚からすると、その受入体制についてはある程度大きな仕掛けが必要だ。今あるもので考えれば、月並みだが、例えばおでん横丁など、もう少し食に関して外への発信の仕方を考えていくと、もっと面白くなると思う。それから朝の企画ということで、藤枝市などでは朝ラーというものを随分盛んにやっているが、朝に居る必然性を作れば絶対に泊まらなければならなくなる。

鈴木貴子委員：朝と言えば、日本テレビのZIPで静岡駅南口側にあるおでんのまるしまさんのことを放送してからものすごく混むようになった。昼間や夜におでんが食べられない観光客の方が、朝におでんやおにぎりを食べて新幹線に乗って帰っている。やはりメディアの力は強い。朝をいかに活かすか。静岡は漁師町でもあるけれど、朝市があまりないのが残念だ。

植田眞委員：宿泊に関してある程度のボリュームが必要ということだが、この前皆さんで乗った葵船は一人1,500円、たくさん乗っても8人程度だから、たくさんのお客を乗せても1回12,000円程度だ。イベントの時だけやったとしたら5日間程度で、それが年に何回か。そうするとおそらくペイしないと思う。何か付加価値を付けなければならない。そうした時に、一つに結婚式や銀婚式がある。今、写真を撮るのが流行っていて、単価的には10万、20万程度、結婚式であればもっと高いが、写真だけでもそのくらい取るような時代だ。そうした何か付加価値を付けて駿府城公園をうまく売り出したらいいいのではないか。

田形和幸会長：葵舟のことがあったが、結構乗ってもらえるのではないか。個人的に姫路城に行った時にお堀に舟があって乗ってきた。大江八幡宮にもやはりお堀の所に乗ってきた。確かに一舟に4人とかだが、姫路では大勢が乗れた。Uターンをしてくと聞いているが、高さや段差があってなかなか回遊することができないかもしれないが、桜の時期などは舟の上から見るのもいい。収益的に合うかどうかは分からないが、やってできないことはないのかなと私は思っている。ただ、泊っていただくということは大事だ。それからリピーターで来ていただくこと。大道芸などのイベントはリピーターが確かにいると思う。民間参入が期待できる施設ということで、舟の話があった。環境整備の必要もあると思うが、他に何か全体的な意見があれば伺いたい。

小泉祐一郎委員：遠くから来る人をある程度泊めるということであれば、静岡だけではなく、

むしろ静岡以外の周辺の資源も自分の資源として使うということも重要だ。例えば三保などでは、観光客は富士宮の白糸の滝に行くことが多い。三保にとっては、富士宮の白糸の滝が自分の所の観光資源なのだ。泊まるということは、ある程度大きく動いて、宿泊地を拠点にここにも行ける、あそこにも行けて便利だということだ。オリンピックの時は静岡に泊まって日帰りで行けばいいという話もあるが。身近な観光資源をPRして宿泊させるということももちろんあるが、静岡の立地からすると東京までの中間地として動けるので、ここを拠点に動くというアピールをしてもいい。遠くの人、海外の人に向かっては、メジャーなものを並べ立てて売り出すという方法もある。泊まる拠点としていると動いてもらう。

田形和幸会長：季節ごとのイベントに応じて、回ってもらう場所を変えて案内するといいかも。富士宮に名家がある。源頼朝が馬を縛った桜を下馬桜というが、招かれて見に行った。昭和天皇がその桜を見に来るために作った離れから見せていただいた。三種の神器ではないが、源頼朝からもらった物や、今川家からお墨付きをもらったり。大石寺というお寺があるが、大石寺はその名家が土地を全部寄付して建立しているから、1年に1回だけ御開帳をやる。そういうことは全然知らなかった。イベントなども、イベントに一つだけ行っても仕方がないから、静岡の桜を日本平とかどこかに見に行き泊まっていたら、秋だったら紅葉の時期にオクズなどに行き泊まっていたら、そういうことをイベントに絡めて、リピーターにも来ていただくようにする。

滞在時間を延長させるには、確かに泊らせるというのが大事だ。それで、私たちとしては色々な文化施設をアピールして回遊していただくということだと思う。先程舟の話があったが、大きな帆船が清水港に停まったりするが、その後バスに乗って山梨に行き泊まったり、御殿場のアウトレットに行ってしまうという話があった。いいものがせっかくあって、私たち静岡市民も知っているのだが、点でしかないのが残念だ。何か企画をして何日も泊まらせていただいて、富士山を見るのであれば、一日目は見えなかったが明日もいけば見えるかもしれないとか、そのためにはどこか、静岡市だけでなく他の所も回ってもらう、ということも必要かもしれない。色々意見が出たが事務局の方でまとめていただきたい。最後に全体を通しての意見や今回議論したポイント以外で意見があれば伺いたい。

事務局：議論2の「目指すべきブランディングとネットワーク」について、ネットワークの部分の連携させるための要素などについての御意見がもう少しいただきたい。

田形和幸会長：ネットワーク化の方法と継続ということに関して、どのような方策があるかなど何か御意見あるか。

事務局：資料3を付けていて、ある程度エリア的なものをイメージしていただきながら具体的なネットワークについて御議論いただきたい。

小泉祐一郎委員：静岡駅にしても、それぞれの観光施設に行った時に、市内の他の所でどんな体験や行事をやっているのかという情報、簡単な掲示板というか、今日はここここで

こんなことをやっているという情報が分かるという。そうすれば、登呂遺跡にしても浅間神社、駿府城公園にしても、次にどこに行こうかとなった時に、そこに他の施設の情報があれば、この後ついでにここに行ってみようと思う。365日毎日やるのは大変だろうから、まずはイベント的にやる。場合によっては土日や祝日に限ってもいいかもしれない。ネット上でのPRはもちろんあるが、そこに行ったときに、ぱっと見て登呂遺跡でもこんなことをやっているのかと。特に日本平夢テラスに行った時に、ここに行くとかいう体験ができるのか、簡単な案内をそれぞれがお互いにアピールし合う。そんなに立派なものでもなくてもいいから、何かあったらいいと思う。

田形和幸会長：今はないのか。

小泉祐一郎委員：ネットなどで検索すればもちろん分かると思うが、今日のおすすめのような看板は特にないと思う。

観光・国際交流課長：観光案内所内に例えばデジタルサイネージのようなもので文字情報として案内できているということは今はない。

小泉祐一郎委員：そこまでやるとなかなか大変なので、掲示板に今日のおすすめは登呂遺跡、などのように、手書きでもいいから貼るとか、実験的にやっていく。最初からシステムを作って動かすと大変だ。あまり大がかりではなく簡単なものでやりながら模索していくのがいい。今は登呂遺跡で次にどこか行く所はあるかと聞かれても案内できない。

田形和幸会長：資料3の中でエリアをまとめてあるが、市外からお客さんが見えになった時に、駿府匠宿に寄ると言われた。展示もあるが何か体験することを考えて匠宿を選んだと聞いた。例えばそこに行って、次に近くにこういうところがある、そこへは何分以内で行けて、そこでこういうイベントをやっている、というように情報の連携をする。このあと半日余裕がある方であれば、次のエリアに行こうということも考えられる。

小泉祐一郎委員：観光に限らず、そこに来た人が次の所に行くための、聞かなくても分かるような表示は現場にはない。せっかく人が集まっていて、多少まだ時間があるのであれば、この近くであればこんなことをやっているとか、立派なものでもなくても情報発信はした方がいい。

杉山茂之委員：この質問は、回遊させるためのネットワークということか。それが私には少し分からない。普通は大体ルートを決めて来るのではないのか。通常、我々が旅行に行く時は、ほとんどルートが決まっていて、帰る時間も決まっていて、ほとんど予定を決めて行く。予定がないと来ないのではないか。

小泉祐一郎委員：2つあり、まずは安近短的人。安くて近くて、長期旅行ではない安近短的人の場合は場当たりの旅行が多い。家族で車で出かけて、ここには行くが、あとはそこまでしっかりと予定は決まっていない。それから、次の予定は一応組んであるが、それ以外にいい情報があれば無理してそこに行かずに変えてしまう。ある程度、遠くから来てしっかりと予定を組んでいたり、あるいは団体行動の場合は当日の変更はないと思うが。

小島孝仁委員：私も結構ノープランだ。この国のこの街のここは行く決めてるが、それ

以外は行ってから決める。

田形和幸会長：色々なタイプの方がいると思う。私も大体決めていくタイプだ。決めて来られる方は県外の方が多と思う。その人たちに情報発信をどういう風にするか。ここここを回って、一泊目はこういう場所に泊まって、二泊目はこういう所に行くところな体験ができるというように情報発信できると、歴史とか史跡をアピールできるのではないか。一つにはノープランで来られる方に対するものと、もう一つは最初からプランを立てて来られた方に何らかの形で泊っていただき、来ていただき、そういう風にして呼び込むことが必要だ。

鈴木貴子委員：28日くらいに大鉦不動尊を目掛けて行かれる方もいらっしゃると思う。すぐ近くに日本初めての和紅茶の発祥地があり、お茶好きな人が行ったりする。和紅茶作り体験ができるのだが、そういう情報はなかなか出ていない。お茶好きの通でなければできないわけではなく、誰でも体験できる。

それから足久保まつりもある。足久保も主にお茶やエリアで盛り上げたりしている。海外で足久保という銘で売り出しているくらいの銘柄だ。しかし、残念ながらそういう情報は知られていない。どうやって知ったかという、フェイスブックで足久保の人達のフェイスブックページを偶然見つけたり、あるいは護国神社で森ガールの人達が集まるような蚤の市があり、そこに行くと静岡だけでなく関東や東海、関西や長野あたりの作家や、こだわりのコーヒーを淹れてくれるような人達が護国神社に集まって来る。それに合わせて静岡だけでなく、遠くからそのお店の作家さんのものを求めて集まってくる。ある人が通な情報を持って静岡に来て、たぶんそこで半日過ごしたら次に他にどこかに行きたいと思うだろう。そういう人達はリピーターなので、2度目3度目と来たら、せっかくなので日本平に行こうとか、用宗に行こうとか、そういう風に誘導できると思う。最近、それこそ通な人は静岡のサウナに全国から来たりする。サウナだけで帰ってしまうのも勿体ないので、せっかくだからその後にお風呂にも行ってもらうとか、おいしいものも楽しめるといことで用宗に滞在してもらい、夜の用宗も朝の用宗も体験しながら、また違った静岡のおもてなし体験ができるという紹介ができる面白い。

小島孝仁委員：最近、うちのサウナが敷地サウナとセットで来てくれるようになった。ついで観光だ。「サウナイキタイ」という全国のサウナファンが作ったサイトがあるが、そこでの評価がぐいぐい上がってきている。そういう所にちょい乗りしているのもいいと思った。

鈴木貴子委員：敷地サウナさんは観光資源ではないかもしれないが、全国的に注目されているものということではうまく便乗してもいいと思う。

小島孝仁委員：結構余白というのは時間でも大事だ。営業などでも一週間毎日びっしり予定を入れてしまうと、突発的に入ってきたいい仕事に対応できなくなったりする。毎日ある程度、時間は余白を持たせた方がいいと思っている。旅なども本当にノープランで行くことはない。食事はここで食べよう、ここは見に行こう、それを3日間のうちにどこで行

こう、その位のざっくりとしたスケジュールで行くことが多い。例えば、講演で話をしなければならぬ時に、完全にパワーポイントで作りすぎてしまうと、現地で全然話が受けていなくても、そのストーリーに引きずられて話さなければならなくなってしまう。行ってみてその人達がどんな人達かを見て、探りながら感じながら話していく方が、かえって受けたりする。そういう点で、ポイントでここはランチで行った方がいい、ディナーで行った方がいい、ここは夕方に見た方がいいというのが分かっている、ここの移動時間は何分位かというのが分かっていると、あとはうまく組み合わせる。そんな見せ方もいいのではないか。

田形和幸会長：せっかくエリアを作ってくれたのだから、そこに行ったのだったらその周りにも行ってみる。回れなかった他のエリアは次の時に行こうとか、そういう風になるといい。次回の時に、回遊とか情報発信の議論はさせていただく。ネットワーク化の方法と継続を含めて、全体的に御意見をいただきたい。

内山和俊委員：前回いただいた資料の中に、今川や徳川のネットワーク関係の資料があった。そういうものと組み合わせて、地域と目的を組み合わせればいいものができると思う。あとは食の関係だ。

田形和幸会長：先ほどお土産の話もあったが、静岡へ来ると何を食べればいいのか。観光客は何を食べて帰ろうということになるか。

鈴木貴子委員：私の周りはサクラエビだ。そのために由比に立ち寄りの方が多いと聞く。最近メディアでも言われるように、サクラエビのお店が休業していたりするので残念だと言う声がある。あとは、外国人の方はわさびだ。それこそ田丸屋のわさびを私はイタリア人の友人から教えてもらった。ヨーロッパですごく人気になっていると言う。田丸屋さんは見学もできる。おいしいお寿司やわさび料理を街中でもいただくことができる。お土産もわさび漬だけではなく、わさび煎餅など色々なものを売っている。わさびのキットカットは外国人受けする。お茶だと清水のお茶の葉クッキーがすごくおいしい。

植田真委員：私などは、スマホがあまりうまく使えない。今みたいな情報がスマートフォン上では色々と載っていると思うが、なかなか辿り着けない。そういう人も多いと思う。せっかくこういう形でエリアがあるのだから、情報を誰かがまとめて上げるのは大変だから、その中の久能山や日本平の方に各々で上げてもらって、それをポータルサイトでまとめるのは静岡市の方で行う。そうすれば、かなりこういう所の情報が入って来るのではないか。

鈴木貴子委員：例えば、静岡市の他の課で静岡おみやプロジェクトを毎年やっている。しかし、市民の方はそのプロジェクトのことを知らない。毎年選ばれた品目が何なのか、残念ながら知らない。直近だと、例えば浅間神社の7社のイメージに合わせてブレンドしたお茶屋さんがある。そういうところだと、浅間神社や商店街でコラボしたりしてストーリーが付けられると思う。それが知られていないので勿体ない。フォーチュンクッキーというものがあるが、実は日本が初と言われている。それも確かおみやプロジェクトにあったと

思う。そういうものとも連携して情報を発信していくといいと思う。

小島孝仁委員：色々なことをやっているが、どれも一番ではないから埋もれている。野球のピッチャーで言うと色々な変化球を投げられるが、全てが2流なので全然大成しないピッチャーのような街だなと思う。何か一つ磨いて、せめて葵舟だけでも全国で1番になるような戦略を考えるというのもあるのかもしれない。

小泉祐一郎委員：それは静岡県内で共通している。色々あるというのが良くないというか。これは、というものが無い。

西尾真治委員：資料3は全体を俯瞰して、色々なものがあるから、それらをネットワーク化して付加価値を出すというのが一つの観点だと思う。例えばこれを一つの基準として、レイヤーで同じ地図の上に食、土産をプロットする。次のレイヤーはどこでどういうイベントが行われているかということプロットする。次のレイヤーにはストーリーがプロットされている。その何枚かのレイヤーを重ねて見る中で、これとこれを組み合わせてみようというように、一つに特化するよりも、全体で新しい価値とか魅力というものを見つけ出すことができるのではないかと感じた。

田形和幸会長：色々な資料をいただいた中で、情報発信はやはり大事だと感じた。せっかくこういうものがあるのだが、他とのつながりもあると思う。お寺に行ったら違うお寺につながっているというように。昔、足立美術館に行ったら、日本の庭園が紹介されているものがあり、その中に浜松のお寺があった。日本で一番古い庭を持っているということで、行ってみたら、本当に手作りの庭で池があり、国宝の仏像が2つあった。足立美術館に行ってそれを見なかったら行かなかったと思う。色々なところでのつながり、家康や今川にしても、色々な商工会議所などでも岡崎とかそういうところも含めて、最後は静岡で亡くなっているのだから。日光東照宮に本当に家康の骨があるのか、分骨したのか、あそこであってわざわざ持って行ったのか、というのが信じられないという話があった。知っている人は知っているだろうが、そうであれば、もっとそういうものを、ここに久能山東照宮がせっかくあって国宝にもなったのだから。日本平に来たのに久能山東照宮に寄らないと言われたから少しショックだった。そういう中で、夢テラスの所に、ここからロープウェイを使って10分で行けるといった案内があれば、では行こうかという話になるかもしれない。そういうことをまた皆さんの方で御意見をいただきながらまとめていきたい。

今回は論点7までであるが、その辺について今日資料が入っているのでお読みいただき、また御意見をいただく形にしたい。意見も尽きないと思うが時間になったのでいったんここで区切らせていただく。それでは、本日の議論は以上となる。次回以降の日程等について、事務局からお願いしたい。

《事務局から説明：略》

田形和幸会長：ただいまの事務局からの説明について御質問等がなければ、本日の議事は全て終了し、第10回行財政改革推進審議会を終了する。

静岡市行財政改革推進審議会

田形和幸